

JB Customer Report

カスタマーレポート

ORPHIS FW 岐阜県内で、実際に機械をご導入いただいたお客様の「生の声」をご紹介します！

取材：営業部 営業企画支援課

岐阜清流高等特別支援学校 様

教務主任 横田様に、平成29年3月に導入したORPHIS FWについてお話を伺いました。

岐阜清流高等特別支援学校では、『企業就労による社会自立に向け、高い志を持ち、専門性の高い知識・技術を身に付け、地域や社会に貢献できる人間性豊かな生徒を育成する』を教育目標とし、生徒が地域社会に貢献出来るよう様々な取り組みを行っています。

教材が印刷機？！

本校は岐阜県初の高等特別支援学校として平成29年度より開校しました。社会に貢献出来る人材を育成する為に、開校前の計画段階から生産事業・サービス事業など業種内容を盛り込み職業に特化した授業を取り入れる事を検討していました。その際にオフィスに必ずある「紙文書」を出力するコピー・プリンター・印刷機に生徒が実務で慣れる必要があると考え、印刷業務も授業の一つに取り入れることを決めました。

印刷機器導入の際に特に、①生徒が簡単で感覚的に使える操作性であること②視覚で覚える事が多い生徒達にとって重要なカラー印刷が低コストで出来ること③印刷業務・印刷業を想定し、あらゆる印刷・枚数に対応出来る耐久性と印刷スピードを持っていること、この3点に重点をおき、その条件を非常に高いレベルで満たしていたのが理想科学工業株式会社の「ORPHIS FW5230」でした。

ORPHISは印刷後の後処理機能もオプションにて追加できましたが、本校ではそれは取って一元化せず、断裁作業・製本作業、紙揃え作業・紙折り作業を別々の機器で行っています。生徒の為に機器導入ですが印刷作業の簡略化が目的ではなく、印刷から後処理の流れを通して、必然的に生徒同士のコミュニケーションや相談する場を設けて、一つの印刷物をみんなで創りあげる喜び、そして「絆」を学んでもらいたいという思いでそのようにしています。ORPHISはその中心を担うセンタープリンターとして活躍していますよ。

授業でORPHISを使おう

授業で活用するにあたって**実際使用する「生徒達」**に、ORPHISや他の機器の説明会を実施し、講師として導入業者のジムブレンさんにご協力していただきました。

生徒達は今まで見た事もない機器に対して戸惑いながらも印刷の役割分担、他の生徒と連携しながら印刷作業し、A4サイズの学校だより・学校で使う冊子を作成することが出来ました。ORPHISを使った印刷作業の過程で新しい事を次々と吸収していく生徒達の姿を見て、ORPHIS+印刷加工機器を授業として導入計画して良かったと改めて思いました。これで生徒達が印刷をするという作業に自信が付けば、卒業後の就職時に印刷分野の企業や事務職へのアピールポイントにもなりますので今後も生徒達に習わせていきたいですね。

地域に根付いたコミュニケーションの場として

導入当初から主は学校内で使用する印刷物を作成していますが、ORPHISは色々な用紙に早く・安く印刷に対応できますので、今後は他の学校や地域の皆様からの印刷作成を請負したいと考えています。外部の印刷請負は、原稿打ち合わせ・納期、料金等々と、人とのコミュニケーションが必須になります。社会に出た時に必要な対人コミュニケーションも印刷請負を通して学ぶことが出来ますので、ORPHISをもっと有効活用していきたいですね。岐阜県の子どもかがやきプランである【誰もが互いに尊重しあい、一人一人の能力を最大限に発揮することができる「共生社会」の実現を目指し、地域の人たちと適切な人間関係を構築し、地域で自立した生活をし、地域に貢献する力を育成するための教育環境整備】を実現するべく、これからも生徒・地域の皆様と印刷を通じた教育を実践していきます。



生徒達が協力して創り上げたクオリティの高い印刷物の数々。これからも印刷作業を学んでいき、目指すは外部からの印刷請負！

営業担当の声

営業担当：柚原 重彦

教職員皆様の、「生徒の自立の為、自分達に何が出来るか」を常に考え、行動されている姿をいつも観させていただき、私自身も非常に刺激と活力をいただいています。

「紙媒体」は、人と人とがコミュニケーションをとるための効果的な手段であり、ネット情報社会といえども、決してなくならない文化です。これからも、岐阜清流高等特別支援学校様と共に、常に生徒の自立の為に何が出来るかを追い求めていきたいと思っています。

